
heven ' s formula1 第2章

鎌田悪石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

heaven's formula 第2章

【Nコード】

N9474G

【作者名】

鎌田悪石

【あらすじ】

天国に到着したセナ。そしていよいよ、天国での初レースに挑む！

F3000レース

門をくぐると、そこには受付があり、そこで目的地への切符を買うことになる。モータースポーツアイランドへの切符は9540ユーベル（天国での通貨単位）であった。そして、その切符を係員にチエックしてもらうのだが・・・

そこで思わぬ遭遇があった。

「切符を拝見いたします」 切符を差し出したセナは、係員の「正体」に気づいた。「ヴィルヌーヴさんじゃないですか!」

「おお、アイルトンじゃないか! どうしてここに?」

「それは、イモラで事故って・・・って、そうじゃなくて! なんてまたあなたも、切符の受付員やってるんですか?」

「イベントだよ。天国に来て最初の頃、この列車の運転手をやったことがあって、その誼で招かれたってワケだ」

「そうですか。で、僕たちの乗る電車は?」

「そこに書いてある。16時10分発、レズモ新幹線「銀傘・山波」9号。18時40分着だ。」

「ちなみに、この3と3分の1番線というのは・・・?」

「ああ。どうやらこここの社長が某魔法小説に衝撃を受けたらしい。そんなことより急げ。発車はもうすぐだぞ。」

見てみると、時計は16時5分。まずい！セナはラッツエンバーガーと共に、「3と3分の1」番線にむけて猛然と走り出した。

「まもなく、3と3分の1番線の電車が発車いたします。」鳴り響くアナウンス。セナとラッツエンバーガーはすんでのところで列車に乗り込んだ。

幸い、忘れ物もなく、やっと胸をなでおろした。ガツタン、ガツタン。プラットホームを離れていく列車の窓から、セナは思いにふける。

これから先、僕達はどうなっていくんだろう。また、レースの世界に行けるんだろうか。僕達の目指す場所には、どんな人、どんな街、どんな風景が待っているのだろうか。

ああ、日が暮れる。車窓から眺める夕焼けは、美しく、希望に満ちているようで、なお且つ無常を感じさせるように沈もうとしている。

じつと窓の外を眺めているうちに、時間は18時30分になるうとじていた。セナは隣で舟をこいでいるラッツエンバーガーを起こし、降りる準備をする。

「モータースポーツアイランド、モータースポーツアイランドでございます。お降りの際は、足下に注意下さい。」

「いよいよだな。」

「いよいよですね・・・！」

ついにセナ達は、新しい世界に足を踏み入れたのである。「モータースポーツアイランド 入り口」と書かれた門の向こうには、マンションや一軒家が立ち並び、いかにも「普通の町」という感じがした。そして、門には門番がついており、切符を見せると、通してくれた。驚いたのは、

門番がカルロス・パーチエ（インテルラゴス・サーキットの正式名称に名づけられたドライバー）だったことである。

そして何より驚いたことには、各々が自分の家に大なり小なり、自分の車を走らせるサーキットを持っていたことである。

それはさておき、セナとラッツエンバーガーは、晴れて互いの住所を確保し、仕事も見つかった。

セナは国際F3000の、ラッツエンバーガーはイギリスF3のドライバーである。

そしてセナの住居は、インテルタウンの3の9、「エクセレンツハウス・マクラーレン」、ラッツエンバーガーはモンツァアカントリーの「ユーハイム・ザクスピード」ということである。両者のもらった書類の中には、「天国の掟」というものもあった。

1、決して人間界に、人間の姿で現れないこと。

2、決して道にゴミを捨てないこと。（路面コンディションの悪化などを防ぐため）

3、F1マシンの公道走行を許可する。

というものであった。

ただし、幽霊姿ならば人間界に降りて、知人と話すのもよい。と書いてあった。

それから、セナは近くの「フォーミュラカー・ドライブクラブ」でフォーミュラカーに乗った。

そして、いよいよレース当日。セナは素晴らしい走りを見せてポールポジション、隣にはヨッヘン・リント。70年のチャンピオンである。

フォーメーションラップも終わり、レースが始まるうとしていた。

シグナルがレッドからグリーンに変わり、音速の貴公子の天国初レースの幕が切って落とされた。

1コーナーにはセナが先に飛び込んでいった。

セナは独走態勢に入り、15週の段階で2位との差は30秒に。

39周目にはタイヤ交換も済ませ、トップでコースに戻ることに成功した。

一方レースは荒れ始め、29周目にはリントがエンジンブローでリタイヤ。

レース残り5週の時点では、残っているマシンは僅か8台というサバイバル・レースになった。

しかしセナは終始完璧な走りを見せ、遂にファイナルラップに入っ
た。

1コーナー、シケイン。1速に落とし、右に左に曲がっていく。

2コーナー、高速カーブ。6速で駆け抜けていく。

そして、長いバックストレート。7速全開、350kmで風のように突っ走っていく。

3コーナー、ヘアピン。レースでのパッシング・ポイントでもある。2速で慎重に曲がっていく。

そして最終コーナーは、バンクのついた高速コーナー。一気に立ち上がり、ゴールへ向かう。

そして遂に、歓喜のチェッカーフラッグ！

セナにとっては、93年、マクラーレン・フォードを駆りオーストラリアGPを制したとき以来の「チェッカーフラッグ」であった。

F3000レース（後書き）

かなりグダグダ感がありましたが、何とか見ていただけるレベルの作品になったと思っています。なにとぞ評価をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9474g/>

heven ' s formula1 第2章

2010年10月8日12時26分発行